

遠藤周作学会 会報

第10号

2015年11月21日

発行 遠藤周作学会

代表 笠井 秋生

二〇一五年度遠藤周作学会・全国大会

総会報告

事務局より

◇第十回二〇一五年度遠藤周作学会・全国大会開催

第十回二〇一五年度遠藤周作学会・全国大会は、二〇一五年九月十九日（土）に、町田市民文学館にて開催された。

運営委員会が十一時半より行われた後、十三時より本学会副代表、川島秀一氏より開会の辞が述べられた。続いて、会場である町田市民文学館の河井康雄館長より挨拶があった。次に、総会が行われた後、以下プログラムのおり研究発表が行われた。続いて、町田市民文学館学芸員による研究発表と資料紹介が行われた。大会進行役は昭和女子大学の笛木美佳氏、及び、ノートルダム清心女子大学の山根道公が担当した。

プログラム

【研究発表】

① 留学から小説『留学』の間、

次なるテーマへの覚醒

周作クラブ 太原正裕

司会 兼子盾夫

② 西洋での『沈黙』の読み方

——カトリック的解釈は可能か

ジョージタウン大学東アジア言語文化学部

ケビン・ドーク

司会 桜美林大学 長谷川（間瀬）恵美

③『イエスの生涯』―語り手によるイエスの継承

関西学院大学大学院修了 斎藤佳子
司会 清泉女学院大学 古橋昌尚

④遠藤周作と「テレーズ」

上智大学神学部 片山はるひ
司会 星美学園短期大学 武田秀美

【町田市民文学館学芸員による研究発表と資料紹介】

①『侍』草稿について

司会 文芸評論家 今井真理
町田市民文学館 学芸員 杉本佳奈

②町田市民文学館 遠藤周作関係資料の紹介

町田市民文学館 学芸員 神林由貴子

【総会】

総会は、議長に長濱拓磨氏を選出して開かれた。まず、二〇一四年度事業報告がなされた。内容は次のとおり。

◆ 第九回二〇一四年度遠藤周作学会・全国大会を

白百合女子大学にて開催。会員四十名、聴講者約四十名の参加があった。

◆ 機関誌『遠藤周作研究』第八号発行。

◆ 第八号は発表者三人に笠井代長をはじめ四人の投稿論文及び、二〇一四年度「遠藤周作国際シンポジウム（韓国日本基督教文学会&遠藤周作学会共同学術発表大会）」の報告を掲載。

◆ 池田静香氏による二〇一四年遠藤周作参考文献目録及び研究展望も収録。

◆ 二〇一四年度韓国日本キリスト教文学会 国際学術シンポジウム（遠藤周作文学の特殊と普遍）（日時：十二月五、六日、場所：仁川大学）に共催、本学会より十二人が参加し、十人が研究発表、講演、シンポジウム発題を行った。

◆ 会員数は、二〇一五年九月時点で一〇〇名。二〇一四年度の新会員は九名。

◆ 太原正裕氏により監査報告がなされ、二〇一四年度の会計報告が承認された。

続いて、事務局より二〇一五年度事業計画について示された。内容は次のとおり。

◆ 第十回二〇一五年度遠藤周作学会・全国大会を町田市民文学館にて開催。

◆ 機関誌『遠藤周作研究』次号(第九号)は、今回の発表者の原稿を掲載予定。募集要項等はこれまで通り。

◆ 二〇一六年度の大会は、関西学院大学で、二〇一六年九月十七日(土)に開催予定。

◆ 遠藤周作没後二十年・『沈黙』刊行五十年記念事業について、長崎市遠藤周作文学館との共催事業を二〇一六年八月十九日(予定)に『沈黙』のシンポジウムを計画中。

最後に関西学院大学の細川正義氏の閉会の辞をもって全国大会の日程を終了した。四十名が懇親会会場に移動し、新会員や発表者の挨拶が行われ、始終和やかな交流が行われた。

■ 事務局より

▼第十回遠藤周作学会・全国大会は、町田市民文学館にて開催しました。参加者は会員三十四名に、聴講者が約二十名加わり、大変盛会でした。この開催のためにご尽力くださいました、町田市民文学館、河井康雄館長をはじめ、文学館の職員の皆様に、改めて御礼申し上げます。

▼今回の大会の研究発表は、多彩な研究者による様々な視点からの新鮮な作家論及び作品論がなされ、刺激的な発表の場となりました。今回も発表時間が各自四十分あり、質疑も活発に交わされ、活気あふれるものとなりました。今後、充実した内容が機関誌にまとめられますことを楽しみにしています。

また、町田市民文学館学芸員の杉本佳奈氏には、草稿の分析によって多くの発見を指摘した、大変意義深い発表をしていただきました。さらに、神林由貴子氏には、町田文学館所蔵の貴重な資料を、説明を交えながら公開していただき、有意義なものとなりました。

▼機関誌「遠藤周作研究」第九号の投稿論文を募集します。機関誌の最後にある投稿規定をご覧ください。会の

方々の意欲的な投稿が多く寄せられることをお待ちしております。
ています。

▼次回の研究発表の申込みは来年五月末日締切りです。
三月に改めて募集のお知らせをいたします。

▼次回の大会は、遠藤周作と縁の深い阪神地方の関西学院大学で行われます。阪神地方は、遠藤周作が十歳から十八歳まで母と過ごして教会に通った遠藤の信仰の原点となる場所で、本大会の十周年の記念の大会を開催するにふさわしい地です。また、来年は遠藤周作没後二十年の記念の年となりますので、多くの学会員が集い、充実した研究発表がなされ、盛会となりますことを期待します。

▼来年八月十九日(予定)に、遠藤周作没後二十年・『沈黙』刊行五十年記念事業の一環として、本学会と長崎市遠藤周作文学館との共催事業を計画中です。詳しくは、三月下旬にお知らせします。多くの学会員にご参加いただけることを期待しています。

▼笠井代表から学会員の皆様に、「学会員数が百名に達したことは大変喜ばしいことで、会員が協力して遠藤研

究がさらに発展することを願い、また、会員の投稿がさらに増えることを強く期待しています」との言葉が届いております。

▼最後に学会員の方々にご協力のお願いがあります。機関誌の「遠藤周作参考文献目録及び研究展望」は、今回ご尽力くださった池田氏が次回も引き続き担当されますので、遠藤周作に関する、会員方々の論文はもちろん、入手できた参考文献についての情報を、池田氏に直接お知らせください。また、これまで参考文献目録について、遺漏のある場合も、池田氏にご連絡お願いします。

▼来年は遠藤周作没後二十年・『沈黙』刊行五十年の記念の年ですので、会員の皆様の力で、遠藤周作学会全国大会及び長崎での共催事業を盛り上げ、遠藤研究の実り豊かな年にいたしましょう。

遠藤周作学会 事務局

〒700 8516 岡山市北区伊福町2 169

ノートルダム清心女子大学 山根道公研究室

TEL: 086 (252) 3129

E-mail: yamane@post.ndsu.ac.jp